

「いま、なぜ宗教間対話なのか」第1回シンポジウム
「壁は乗り越えられるか？—対話の現場から」, 2011.07.09

現代世界と宗教間対話

同志社大学 神学部 教授
—神教学際研究センター長
小原克博

Overview

- * 現代世界における宗教の位置づけ
- * 宗教間対話の必要性
 - * 欧米の場合、日本の場合
- * 日常的な取り組みの事例
 - * CISMOR, K-GURS
- * 結論



現代世界における宗教の位置づけ ——私の体験から——

- * 冷戦以降：イデオロギー的対立の終焉
- * ドイツでの経験
- * 冷戦、ベルリンの壁の崩壊、東西ドイツの統一、そして社会不安
- * 9.11以降
 - * トルコ系移民：「労働者」から「ムスリム」へ
 - * 宗教と暴力

宗教間対話の必要性



欧米の場合

- * ユダヤ教、イスラームとキリスト教の対話は歴史的必然性を有している。
- * 第二次世界大戦時におけるホロコースト
- * 9. 11以降のイスラモフォビア（イスラムへの憎悪感情）の拡大

日本の場合

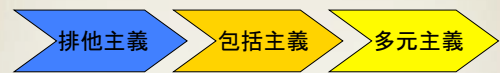
- * 弛緩した平和を唱えるサロンの対話
- * 現代日本においては、宗教間対話を推し進めなければならない切羽詰まった事情があまりない。
- * 声高にスローガンが述べられても、実践は伴わない。
- * 平和の占有と、暴力の外部化——「壁」の構築

近代日本における宗教間対話

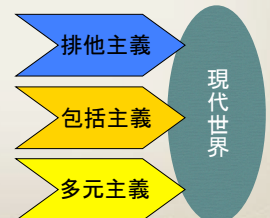
- * 知識層における宗教間対話（特に仏教とキリスト教の対話）への関心
- * 仏教からキリスト教（ユニテリアン）への関心。普遍主義（universalism）への関心。
- * 前近代的とされた民俗宗教などは対話の対象外。
- * 国体イデオロギーのもとでの宗教間の協調関係（三教会同、1912年）、そして戦争協力

他宗教理解の類型

- * 多元主義者による進歩史的理解



- * 現代世界の实情



日常的な 取り組みの事例



同志社大学 一神教学際研究センター (CISMOR)

- * 対話の対象とされてこなかった人々（グループ）との対話
- * キリスト教：福音派（ファンダメンタリスト）
- * イスラーム：過激なイスラーム主義者、タリバーン
- * サウジアラビアとの対話

京都・宗教系大学院連合 (K-GURS)

- * 仏教同士の対話の促進、マイノリティとしてのキリスト教の役割
- * 若い世代（将来の僧侶・牧師）における宗教間対話の促進
- * 共通の課題認識
- * チェーンレクチャー「宗教と暴力・戦争」

【結 論】

21世紀の宗教間対話に
求められているもの
— 壁を越えるために —

- * 具体的な共通課題の設定
 - * 日常的な対話的实践、Interfaith NGOの展開
 - * 対話を阻害する力（暴力、紛争）の分析
 - * （対話を求めない）原理主義的グループとの対話
 - * 宗教の内部における対話（Intra-faith dialogue）
 - * 「宗教」と見なされなかったものとの対話
 - * 多様な民俗宗教（民間儀礼）、スピリチュアリティ
 - * 内発的な変化を見届ける。外圧によって変化を強くない。

参考文献



www.kohara.ac

